

OLIS 2010 Spring 講義レポート

6月17日(木)

「生命保険事業概要」(OLICD Center 木村一郎氏)

講師は、日本の生命保険事業の現況とたどった歩みを概観した。業界の規模を紹介した後、営業と資産運用の側面から、主力商品の変遷、資産構成の変化等について説明された。次に、生保会社の経営に影響を与える環境の変化について、最後に、日本の生保業界の主な出来事について話された。

日本の生命保険事業は、1970年代と1980年代に大きな成長を遂げた。日本は、1960年代から1975年代前半に高度経済成長を遂げ、この時期に中間所得層が形成された。中間階層の形成は、生命保険の普及のための重要な要因である。

オランダの経済学者であるアンガス マディソンが主要国の2030年の一人当たりGDPの推計をしている。アジアの国々で大きな成長が予測されている。

少子高齢化を背景に、生保会社の主力商品が、保障型商品から年金や医療保険にシフトしている。高齢化により、公的医療保険、公的年金への財政負担が膨らんでおり、民間生保の役割が益々期待される。

講師は、業界の主な出来事として、「生損保の相互参入」、「中小生保の破綻」、「不払い問題」、「銀行窓販」を取り上げられた。参加者から、銀行窓販に関する質問が多く、銀行窓販への関心の高さがうかがわれた。